

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870300199		
法人名	医療法人 齊藤医院		
事業所名	グループホーム 藤の園		
所在地	〒915-0802 福井県越前市北府町3丁目10-21		
自己評価作成日	令和元年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=1870300199-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人のため、利用者に異変が起きてもすぐに対応出来る様、看護師、医師との連携を蜜に図っています。又、同事業所に療養等、老人保健施設、デイサービス、小規模多機能があり、本人の状態に合わせて柔軟な対応が出来る様になっています。当ホームは、ゆったりとした雰囲気の中で、利用者と職員はとても仲良く過ごし、一人一人の思いに副って、利用者が寂しい思いをしない様に、常に声掛けを行って、本当の家族の様な温かな関係が来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家庭的な雰囲気の中で利用者の意思や思いを尊重し、笑顔で暮らせるよう支援をしています。日々の日課が気がかりな利用者には分かりやすい日課表を作り、本人が確認しやすい居室に貼り安心した暮らしに繋げる等、一人ひとりを尊重した細やかな対応に努めています。長く勤務する職員が多く、利用者や家族が安心できる馴染みの関係を築き、家族から出された意見や要望は速やかに検討し改善に繋げています。また職員は毎月の親睦会や年に1度は慰安旅行に出かける等良好な関係を築き、利用者の役割や笑顔に繋がるような支援に向けて意見や提案を出し合い、定期的なビューティサロンの開催や着物やドレスの花嫁衣装を着る体験等は利用者には大変喜ばれたり、月に1度は紙すき体験や菊人形、カラオケボックス等多彩な外出行事も楽しんでもらっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合っ決めて「友と交わり、地域と交わり、小さな家庭に、大きな笑顔が」を理念とし、フロアの目に付きやすい所に掲示して、常に念頭に置きながら最大限の支援を行っている。	開設時に掲げられた独自の理念を継続し、リビングの目に付きやすい場所に大きく掲示し、職員が意識できるようにしています。日々の支援の中で理念を念頭に置き家庭的な雰囲気作りや利用者が楽しめるイベントや外出等を企画し、穏やかに暮らし笑顔に繋がるよう支援をしています。また理念の在り方について考える機会を持っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事参加での交流や、ご近所の散歩や買い物などでの出会いの中で地域の方々にご理解やご協力を頂き、暖かく見守って頂いている。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議で地域行事の情報を得て地域の花火大会を屋上から見学したり、ホームの納涼祭には歌や踊りのボランティアが来訪しています。法人の他施設に歌劇団などのボランティア来訪時にも一緒に参加し交流したり、隣の喫茶店を利用することもあります。職員は日頃から地域の方への挨拶を心がけ、傾聴ボランティアの受け入れについて検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談、見学等継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開かれており、経営者、家族の参加も得て話し合いが行われる。特に災害時についての意見交換が多く、緊急時のホームのマニュアル作りに反映させている。また、会議での話し合いは議事録にまとめて各家族に配布している。	会議は家族代表や区長、民生委員、老人家庭相談員、市職員等の参加を得て開催しています。写真を用いて利用者の状況や行事報告やヒヤリハット等の報告を行い、身体拘束委員会も合わせて行い意見交換をしています。地域の防災訓練の案内をもらい参加を予定したり、災害に備え自警団に来てもらう事が決まる等運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が催す研修会には必ず参加し、意見交換を行ったり、又、認定調査時には担当者より助言をもらったりして、サービスに活かしている。	運営推進会議に市職員の参加を得ておりホームの状況を把握してもらい、良好な関係を築いています。分からない事などは気軽に相談ができ、実地指導の際などにも助言を得ています。また3ヶ月に1度介護相談員を受け入れたり感染症などの注意喚起や研修案内は法人を通して届き職員が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが作成されており、全職員が目を通して理解の下で毎日のケアに活かしている。運営推進会議でも第三者の意見を取り入れたり、身体拘束廃止を話し合う機会を増やすようにしている。	年に3回程度、身体拘束に関する法人研修や外部研修を受講し不参加の職員には伝達研修を行っています。運営推進会議で行う身体拘束適正化委員会に合わせて事前に職員会議で検討し、言葉による制止などについても具体的に話し合っています。フロア出入口は施錠していますが外に行きたい方には付き添い、拘束感のない支援に努めています。	

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルが作成されており、高齢者虐待防止関連法についての研修を全職員が受けている。発生する事の無い様虐待について事業所内でも話し合いの機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	殆どどの職員が研修を受けており、内容を把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な時間をとり、説明書を渡すと同時に口頭でも説明し、疑問点には納得いくように説明を行っている。また、面会の際は意見交換を行い、相互に理解を深めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確で、ホーム内にも掲示されており、家族や利用者にも折に触れて伝えて、家族や利用者から出た意見は顕著に受け止め、運営に反映させている。また、三ヶ月に一度の介護相談員の訪問により、利用者からの意見も取り入れ、日々向上に努めている。	家族の来訪時に様子を伝える中で意見や要望を聞き、利用者からは関わりの中や定期的に介護相談員を受け入れ話を聞いています。利用者や家族から出された個別の要望については介護計画に盛り込み日々の支援に繋げています。意見を受けて個室のトイレの使用時には、職員間で連携して見守り清潔の保持に努めるなど改善に繋がるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を開いており、各職員の意見を運営に取り入れている。又、委員会を作っており、その中で意見を反映させている。	毎月の全体会議では職員から多くの意見や提案が出されており、意見を受けて楽しめるレクリエーションの検討や利用者の室内履きを定期的に洗ったり、使用した爪切りの消毒などその都度検討し改善に繋げています。また毎月親睦会を開いたり、年に1度慰安旅行に行くなど日頃から話しやすい関係を築いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態は把握しており、本人の自信に繋がる様なアドバイスもしている。又、夫々に役割を決めて責任を持ちながら業務に取り組める様働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自らが法人内研修を行い、職員は全員受講している。又、職員が自分に合った講習会、研修を自らすすんで受講している。受講後は伝達講習を行い、知識を共有するようにしている。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修に参加して交流を図っている。また、相互研修として、他施設実習や他施設の実習生を受け入れる等、勉強会、意見交換等を行って、お互いの向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にアンケートを取り、それに基づいて本人の希望、不安等を把握し、本人の話す内容に共感・受容の体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に説明書を渡すと同時に口頭でも詳しく説明を行い、家族の思いも十分に伝えられる様、時間をとっている。また、利用者の意見や要望を聞き、本人を支援する意見交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を収集・分析して、一番良い方法を全職員で検討し、対応に努めている・入所後、状態の変化があった場合は、事業所の相談員と再び相談し、連携を取りながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護という枠にはめず、家族と一緒に生活しているという観点から、支え・支えられながらという関係を築いている。ご自身の家と思えるように安心した生活ができるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月現状報告を作成し、体調面や日々の様子を報告すると共に、家族が面会に来られた時には、利用者に対する意見や要望を聞き、本人を支援していく為の意見交換を行っている。また、ホームの行事の際には案内状をお送りし、交流の場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には居室に案内し、ゆっくり会話が出来る様に配慮している。	友人や親戚などの来訪時は居室で利用者とゆっくり寛ぎ話ができるよう配慮をしています。自宅に戻り庭の花を摘んだり知人に出会った時は会話を楽しんでいます。また家族と共に葬儀などに参列する方もおり、利用者の状況を家族に伝えたり、送り出しなどを支援しています。	

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員の関係を把握しており、場面に応じてサポート・フォローに入って、お互い良い関係が築けるように援助している。共同作業の貼り絵を作ったり、利用者全員で取り組めるようなレクリエーションや行事等を積極的にを行い支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求められれば情報提供を行ったり、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にアンケートをとり、本人の希望、意向を明らかにしている。アンケートのみならず、日常の会話の中で現在の本人の思いをより理解し、ケアプランにつなげている。また、ご家族にも思いを伝え安心して暮して頂ける様支援している。	本人や家族と面談した際の情報や家族には本人の希望や趣味等を書いてもらい、前の担当者から得られた情報を加味し意向の把握に繋げています。入居後は本人の言葉や職員の気付き等を記録に残したり、計画作成時は本人の思いを聴きながら一緒に考えています。また把握が困難な場合は笑顔が見られた時の状況等からその思いを汲み取ったり家族にも相談しながら把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人または家族より、今までの生活の経過を詳しく聞き取り、全職員が把握している。また、日常会話の中で本人の思いを汲み取れるように話しやすい環境作り等に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時は特に状態把握に努めると共に、個別に毎日の排泄パターン、睡眠、バイタル等が一目で判るような用紙を作っている。処置が追加になれば追加項目を作成し、一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度は本人の意見も取り入れ、一人ひとりの状態に応じたケアプランの作成と、3ヶ月に一度はNS、全職員でプランの内容を検討し、月に一度はモニタリングも行っている。状態に大きく変化があった場合は、随時ケアプランの見直しを行っている。	事前に確認した家族の意向を踏まえ担当職員が立てた計画の原案を基に本人や母体の看護師の参加を得て担当者会議を開き、看護師からは医療的な意見をもらい、利用者の役割や楽しみも取り入れた介護計画を作成しています。毎月モニタリングと3ヶ月毎に評価し、変化の無い場合は6ヶ月毎に再アセスメントと評価を行い計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテが有り、日勤・夜勤帯に於いて毎日の様子や本人様の言葉も記録しており、申し送りにより全職員が情報を共有している。特に気になる事等は職員用の申し送りノートに書き入れ、職員間で意見を出し合って日々の介護に活かしている。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に異変が生じた場合は、同法人内に診療所、老人保健施設、小規模多機能等があり、状態に対して柔軟な対応が取れるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や学生等の受け入れを行っている。また、納涼祭等にボランティアの方に参加して頂いている。外出希望のある方は近所を散歩したり、一緒に買い物に行ったりと希望に応えられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、主治医の了解の上、本人または家族の希望する医療機関に受診出来る様配慮している。医療機関には情報提供書を渡し、スムーズに処置が受けられるようにしている。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えていますが全員が母体の協力医を選択し月に1度往診を受けています。母体の看護師が毎日訪れ健康管理の他、体調変化時の相談や指示を受けたり状況により医師に繋いでもらっています。また母体の歯科衛生士が毎月口腔チェックを行い治療が必要な場合は医師に伝え受診しています。他の専門医へは医師が紹介状を書いて受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院より、毎日看護師が利用者全員の健康管理と医療的指示を行ってくれている。定期的な訪問以外にも、利用者の状態を蜜に連絡を取り合って相談したり、指示を受けながら支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の地域連携室と情報交換を行っており、その都度相談できる体制が整っており、退院に向けての連絡も取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の様子、身体の異常は小さなことでも全て看護師に報告し、Drからの指示に従って対応し、家族には現状報告と共に事業所が出来る範囲の事を詳しく説明している。今後の変化に備えて事ある毎に検討し、指示を受けながら支援をしている。	入居時に状況により看取り支援を行う事は可能な事を伝えていますが。看取りに近い支援を経験しており、利用者が重度となった場合は家族へ状況を説明し、家族の意向を尊重しながら今後について話し合っています。病院に入院となるケースが多い状況ですが、家族とコミュニケーションを図り協力を得ながらできる限り意向に添うよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故の対応について不安や分からないことがあれば、その都度話し合うようにし、時には実演などを行い、互いに勉強し、マニュアルなどを身に付けるよう行っている。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日中・夜間想定火災、災害時(地震、水害、原発事故)における避難訓練を行い、緊急時の連絡体制や火災時マニュアルを作成し迅速に対応出来る様努めている。また、地域の方たちと協力体制についての話し合いも行われている。	年に2回昼夜を想定した火災訓練を行い1度は消防署の立ち会いを得て通報等の一連の訓練の他、寝たきりの方の搬送等を行いアドバイスを得ています。また年に1度は地震や原発等の災害を想定した訓練を行い、3ヶ月に1度県から原発に関する訓練状況の確認の電話があり状況を伝えています。今後は訓練時に自警団来てもらいアドバイスを受ける予定としています。	課題とされている地域との協力関係作りに向けては訓練開催時に近隣に案内をしたり、今後は自警団に来てもらう予定とされていますので協力体制作りに関することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちに添った言葉掛けや対応に努めている。特に排泄時の居室への誘導は、周りの方や本人にも配慮した声かけを行っている。	法人による認知症やプライバシーなどの研修の中で利用者を尊重した対応についても学んでいます。利用者への呼びかけは苗字を基本とし、下の名前呼び掛けの際には本人の了承を得ています。また日頃は方言を交えながら一人ひとりに分かりやすい言葉遣いに努め、不適切な言葉遣いや対応が見られた際は職員間でも互いに注意できる関係を築いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、職員との信頼関係を築いた上で、本人が理解出来る言葉使いで働きかけ、常に選択できる環境を作ることで要望や自己決定が行える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の自主性を尊重し、本人の求めている生活が出来るよう支援している。例えば、外出希望のある方には、週に一度家族の方と外出し、気分転換を図って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人の希望を確認したり、決められず、悩まれる場合は、同じ洋服ばかり着ることの無いよう、季節、天候に合わせて支援している。また、行事の際は化粧をして頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に台所に立ってもらったり、盛り付けや配膳など、その人の能力に応じた範囲で行ってもらっている。外食や、施設内で普段と違った食事を楽しんで頂けるよう月に1度計画を立て、楽しみを持って頂けるようにしている。	法人からおせち等の行事に配慮した献立と食材が届き、利用者に野菜の皮むき等の下拵え等のできる事に携わってもらい作り、家庭的な雰囲気の中で職員と共に談笑しながら食事を摂っています。誕生日には寿司等の好みの献立や外食をしたり、ラーメン屋に来てもらう事もあり、食事を楽しくめるよう支援をしています。また嗜好に合わせビールを飲む方もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Drの指示に基づき、一人一人の栄養状態や水分の確保量を把握している。また、半年ごとに栄養士による栄養スクリーニングを実施しており、その人の状況に応じた形で、1品好きな物を加えたり、食べられない食事の場合は代替りの物をお出し、摂取してもらえるよう支援している。		

グループホーム 藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科衛生士が口腔ケア指導をして下さり、アドバイスをもらっている。アドバイスの下、毎食後に歯磨きの声掛けを一人ひとりに行い、一人で出来ない利用者には職員がついて一つの動作毎に声掛け、指示を出して一緒に行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を作成し一人ひとりの排泄の時間帯を把握し、その人に応じて声かけ、又はトイレ誘導を行っている。不十分な行為には介助を行い、残存能力に応じた支援を行っている。	各居室にトイレの設備があり、排泄記録や排泄のサインなどを見ながら失敗に繋がらないよう早めの声掛けや誘導を行っています。また本人の思いやこれまでの排泄習慣を尊重し家族にも相談しながら排泄用品の種類の選択や工夫を行っています。紙パンツを使用して退院となった場合もできるだけ早期に布の下着に移行し快適に過ごせるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄チェックを行った上で、その人に応じた飲み物等(きなこ牛乳やヨーグルト等)を摂取してもらい、どうしても排便が無い場合は腹部マッサージなど、NSと話し合い、下剤服用等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は、決められているが、入浴時間や入浴内容は、個人の希望を取り入れて、入浴剤を使用したり、ゆったりとした気持ちで入ってもらえるように支援している。	おおよその入浴日は決め順番や時間帯の希望を聞きながら週に2回以上入浴できるよう支援をしています。入浴を断る方は殆どなく季節の柚子湯や入浴剤を用いたり、シャワー浴を希望の方は併せて足浴をする等、職員と会話を楽しみながら個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活状況に応じて休息して頂いている。夜間、心配事で不眠の方には訴えを傾聴し、不安が軽減するよう共感し、言葉かけを行って安心できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬管理表を作成し、薬剤情報を全職員が目を通し目的や用途について理解している。うまく服薬できない利用者には側について飲み込むまで確認を行っている。また、入所者が薬について疑問な点は納得いくまで説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来ることを見つけ、モップ掛けや食事の手伝い、洗い物等をして頂きメリハリのある生活を心掛けている。また、利用者の意見も取り入れ、月に一度は色々な行事を計画し楽しんで頂いている。入居者同士での共同作業では談笑され、和気藹々と取り組んでいる。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩したりしている。月に一度は買い物や外食の機会を設け、家族もお誘いし、一緒に楽しい時間を持つように心掛けている。行先や外食のメニュー等も利用者の希望も取り入れて一緒に計画を立てている。	気候の良い時期は散歩や買い物などに出かけたり、中庭の花の水やりなどを行っています。年間を通して桜や菜の花などの花見や紅葉狩り、海を見に行ったり、毎年恒例となっている菊人形のイベントや紙すき体験に行く等の外出行事をしています。また時には家族を誘ったり、外食を兼ねる事もあり外出を楽しめるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣金程度の金額は、個々に出納帳を事務所で管理しており、希望があればいつでも使える様になっている。また、行事で支払を要する時は手元に持っていないことを気にされている方に対して預かっていることを説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話の希望があれば随時対応している。事前にご家族とも話し合い、電話に出易い時間帯などの相談もしており、連絡しやすいよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには季節の造花や生花、利用者が作った工作を飾ったり、納涼祭には提灯、ひな祭りにはひな人形を飾る等、季節の行事に応じて演出している。中庭ではプランターに季節の花を植え、見たり、触ったりと季節を感じていただいている。	リビングからはテラスで育てている季節の花を眺める事ができ、楽しかった行事の写真などを壁に飾っています。利用者の声を聴きながら室温調整したり、食卓の座席は利用者の相性に配慮して決め、少し離れた場所にはソファを置き寛げる居場所も作っています。また畳のスペースもあり利用者が洗濯物をたたんだり、行事の際などに利用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は気の合う利用者同士が隣り合わせになるように席を配置し、座って頂いている。フロアーのソファには思い思いに座っていただき、TVや会話を楽しんで頂いている。場に入れない方には職員が対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の家庭馴染みの家具を自由に持ち込める事を説明する。居室でTVを見られる方には家族と相談し、持ってきていただく場合もある。また、家族の写真を飾ったり、職員からの誕生日カードを飾ったり、本人様の好みに応じた居室になっている。	居室にはトイレや洗面、ベットや整理筆筒、テーブルセット等が備えられ、入居時に馴染みの物や大切な物などを持ってきてもらうよう伝えていきます。家族がテレビやソファ、ハンガーラック、手押し車等利用者が過ごしやすい物を用意し、大切な遺影や押し花等の自身の作品を飾ったり、好きな本や雑誌を見て過ごす方など、安心して寛げる居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日の日が一目でわかる手作りカレンダーやわかりやすい時計が見やすい場所に配置してある。居室の入り口には季節の飾りを本人様によって頂き、目印にして、混乱を防ぐ工夫をしている。		